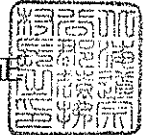


平成19年4月20日

国土交通省 道路局長 様

猿払村長 森 和 正



道路特定財源の見直しに関する具体的考え (中期計画)

平素、特段のご高配を頂き厚く御礼申し上げます。
標記の件につき、考えの一端を申し述べさせていただきます。

記

●道路財源は、今後も必要とする財源である。特に積雪寒冷地帯においては完全な道路を造ったとしても冬期間の自然現象には勝てず、凍上し亀裂・波がうち、除雪にも影響が出て、春先必ず補修等しなければならないこと。

●今、日本海側にL40号の高規格道路が造られていますが、オホーツク海側、L238号線並びにL275号線から最短距離で接続する道路が必須であることから早期に並行して進めて頂きたい。

●関連し、国道を連絡する林道網等接続させ国土保全を守る必要がある。でないと火災並びに災害等守ることが出来ない。

●昨今、L238号線は海岸線をルートとしていることから時化による海岸侵食が著しく、道路を守る護岸等が早急に必要としていること。(ここ1年間で2度も発生している実態にある。)単に部分的に補修しても必ず、どこか破損することが想定される。本村の海岸は岩場でなく海底は砂礫であることが要因である。

●L238号線及びL275号線は、救急救命の唯一の路線であり、その確保が最大限優先される路線である。

●本村は酪農地帯であるが、道路は全て村道として認定しており、以前、国営中央開発パイロットファームで実施した道路事業も泥炭土壌であるがため路肩もなくなり融雪時・降雨時道路が冠水するなど著しい支障を来している。

●ポロ沼地区国営総合農地防災事業が採択、実施されようとしていますが、一部このエリアから除外された地区については、国営農地再編整備事業を計画して頂きましたが、受益者負担等の問題で当面は検討する状況にあり、周辺道路は大型農作業機械導入で農道の幅員では狭隘で拡幅改良が迫られ、村独自でも実施せざるを得ない状況にあるが、ご存知のとおり、今の村の財政状況では早期に実施できず、より良い工夫と補助制度があれば非常に助かります。

●更に、農業法人化に伴い TMR センターの活動は目覚ましいものがあり、そのためにも既存道路網の拡幅改良整備は欠かせないものとなっている。

平成 19 年 4 月 20 日 猿払村長 作成